



◇コンテナ苗の普及・試験の取り組み -コンテナ苗検討会-

5月14日、岐阜署下呂市の門坂国有林において「ヒノキコンテナ苗検討会」を開催したところ、県内の林業団体等約40名の参加がありました。

コンテナ苗は、造林の低コスト化・省力化が図れるとして普及が期待されていますが、岐阜県内では生産、普及とも進んでいない状況にあります。

はじめに岐阜署及び森林技術・支援センターから、コンテナ苗の特徴や国有林での利用実績、岐阜県森林研究所から、ヒノキコンテナ苗の規格や生産方法について説明を行いました。

その後、岐阜署、森林技術・支援センター職員の指導の下、コンテナ苗用に開発された種々の植付器具や当センターが急傾斜地植栽用に改良したクワを使って植栽体験をしていただきました。参加者からは「植栽器具の違いがよくわかった」、「急斜面では改良クワが植えやすい」、「苗の運搬が課題では」等の感想や意見が出されました。今後は無地拵えや無下刈りによる初期保育の低コスト化や各種植栽器具の作業効率、労力の軽減効果等について岐阜県森林研究所と実証試験に着手し、地域に適したコンテナ苗の育苗やコンテナ苗を導入した造林技術の普及に取り組んでいくこととしています。



現地説明の様子



植付の様子



改良クワの角度の違い

左80度

右90度

◇森林技術研修

6月9日から12日の4日間、森林技術・支援センター及び小川長洞国有林において、森林技術研修を実施しました。

この研修は森林整備事業体の監督・指導等に必要な森林技術の向上を図ることを目的に実施するもので、各署の経験の浅い森林官等7名が受講しました。

カリキュラムでは、「集材作業に関する知識」「集材施設の概要及び集材機の操作、各種設備点検方法」「伐木造材及びチェーンソーに関する知識」「安全関係法令等に関する知識」等と多岐にわたり、実際に集材機・チェーンソー・刈払機・バックホウの操作を体験しました。

なかでもチェーンソーの伐倒及びかかり木処理・造材の実技では、安全な作業方法について、熱心に講師の指導に耳を傾けていました。

今後は、今研修で学んだことを実際の業務に活かすとともに、森林技術の向上のため、更なる自己研鑽が期待されるところでです。



架線集材装置
模型による説明



集材機運転体験



チェーンソー
の目立て



伐倒の実技

◇技術者育成研修

林野庁では、森林・林業の再生、成長産業化の実現を目指し、地域の取組を推進する森林総合監理士（フォレスター）の候補者となる技術者を育成するため、中央での研修に続き全国を7ブロックで研修を実施しています。中部ブロック研修は当センターを研修拠点に、周辺の国有林をフィールドにした現地実習等を主体に行っています。

今年度の中部ブロック研修は、9月1日～4日の4日間、下呂温泉旅館会館及び岐阜署管内の乗政国有林、七宗国有林をフィールドに中部森林管理局管内の4県(富山、長野、岐阜、愛知)のほか、石川県、福井県、三重県の県・市町村職員、民間(建設業界)27名及び国有林職員6名あわせて33名が研修を受講しました。

今後は森林総合監理士資格取得を目指すとともに、この研修で得た「知識・技術・ネットワーク」を活かし、地域林業の現状把握と課題を共有し、山村地域の活性化に貢献されることが期待されています。



乗政国有林 森づくり構想実習



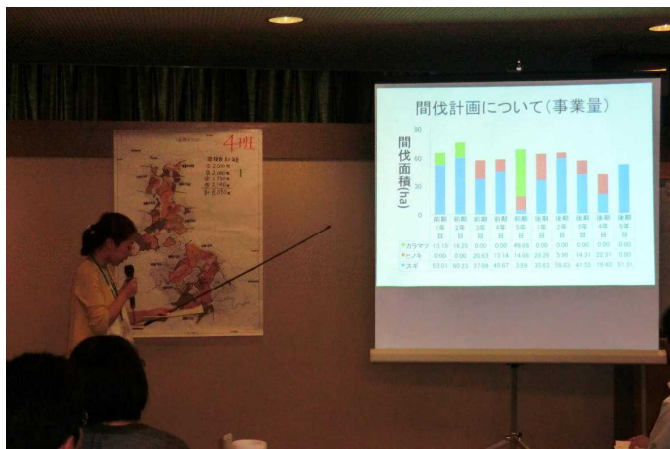
机上演習の様子



七宗国有林 資源循環利用構想実習



七宗国有林 資源循環利用構想実習



各班で策定した経営ビジョンのプレゼンの様子



研修生と研修スタッフ

◇民有林への技術指導

一般社団法人岐阜県森林施業協会から、平成27年度林業架線作業リーダー養成事業による林業架線作業学科講習の講師依頼があり、8月24日に林業事業体から6名の講習生を受け入れ、架線集材装置の点検方法や模型を活用して基本操作等指導を行いました。



◇飛騨高山高校生徒が試験地見学

岐阜県立飛騨高山高校から試験地や集材機を見学したいとの相談があり、8月10日に2名の生徒を案内しました。小川長洞国有林の列状間伐実験林をはじめ架線集材装置の点検方法について説明を行い、生徒は熱心に耳を傾けていました。



模型を使用した集材機操作

列状間伐実験林の説明



架線集材装置の点検の様子



◇試験地(指標林)の紹介

～小川長洞国有林 ヒノキ本数密度実験林～

1 設定の目的と取扱い

ヒノキの植栽密度が、植付、保育等の経過及び、間伐、主伐時の収穫に及ぼす影響を調査し、昭和39年当地方にあった植栽本数の範囲を決定するための資料収集を目的に設定するも、気象害等の理由により調査の継続が困難となり昭和58・59年にかけて再度設定しました。

現在は生長量調査、保育作業記録等の継続と併せ、植栽本数の違いによる下層植生の推移等の観察に重点を置いた試験地として維持管理を行っています。

2 場所等

場所： 下呂市小川 小川長洞国有林1105た む林小班

機能類型： 水土保持林（水源かん養タイプ）

3 面積

1105た林小班 2.87ha(3,000本区0.96ha)

(4,000本区1.91ha)

1105む林小班 3.01ha(2,000本区0.50ha)

(4,000本区0.95ha)

(5,000本区1.56ha)

4 施業等の概要

3,000本/ha、4,000本/ha植栽区

年	作業	内容
S58	植付	3,000本/ha、4,000本/ha植栽
S58~63	下刈	昭和58~63年 6回
H5	除伐	1回目
H6	枝打	1回目
H15	除伐	2回目
H15	枝打	2回目
H16	除伐Ⅱ類	
H23	間伐	伐採率：30%(材積率)

2,000本/ha、5,000本/ha植栽区

年	作業	内容
S59.4	植付	2,000本/ha、5,000本/ha植栽
S59~H1	下刈	昭和59~平成元年 6回
H2	つる切り	
H7	除伐	1回目
H8	枝打	1回目
H15	枝打	2回目
H16	除伐	2回目
H23	間伐	伐採率：30%(材積率)



2000本区の様子

5 調査計画等

植栽の翌年から下刈完了時までは毎年、10年生以後は原則5年毎に生長量を調査し、主伐に至るまでの成長過程、形質のほか施業経過等を記録する。

6 地況

標高	550m~650m
平均林地傾斜	30度
方位	北
土壌型	B ₀ (d)

7 林況等

プロット	H17年			H22年		
	本数/ha	平均胸高直径	平均樹高	本数/ha	平均胸高直径	平均樹高
2000本区	2,041本	7.3cm	9.3m	2,000本	12.3cm	9.9m
3000本区	2,882本	8.2cm	10.9m	2,788本	12.7cm	10.8m
4000本区	4,228本	12.6cm	10.9m	4,025本	13.5cm	13.2m
5000本区	4,983本	8.1cm	6.9m	4,833本	9.4cm	8.8m